

## サステナビリティ2025年のあるべき姿

古河機械金属グループでは2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」が実現した時にどのようなCSR活動を行っているべきなのかを考え、2016年に「CSR2025年のあるべき姿」を定め、2023年5月に名称を「サステナビリティ2025年のあるべき姿」に変更しました。

当社グループが社会に必要とされ、信頼される企業であり続けるために、あるべき姿の実現に向けて活動を推進していきます。

### ■ サステナビリティ2025年のあるべき姿 (2023年5月改訂)

<p>■ 環境・安全活動を推進する。</p> <p>環境負荷低減、環境保全推進、生物多様性保全の推進、環境・安全活動成果の公表、無事故・無災害の達成、休廃止鉱山における坑廃水処理施設・たい積場等の安定的維持管理、技術の継承</p>
<p>■ FURUKAWA製品のブランド力向上とカテゴリートップを目指す。</p>
<p>■ 人材基盤を拡充・強化する。</p> <p>従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮して新たな価値を創造することができ得る働きやすい環境を整備することによる働きがいのある会社の実現</p>
<p>■ 顧客に信頼される製品を持続的に生産、販売するためにサステナビリティ活動を基盤としたQCD<sup>※</sup>を追求する。</p>
<p>■ サステナビリティへの取り組みを推進する。</p> <p>全社的リスクマネジメントの体制拡充、サステナビリティ・気候変動に係る開示の推進、サステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ(重要課題)の目標管理、環境および人権デュー・ディリジェンスへの対応、カーボンニュートラルへの対応</p>
<p>■ 全ての役職員が国際社会に通用する高いコンプライアンス意識を備え持つ。</p>

※ QCD:Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(納期)

### ■ サステナビリティ推進体制

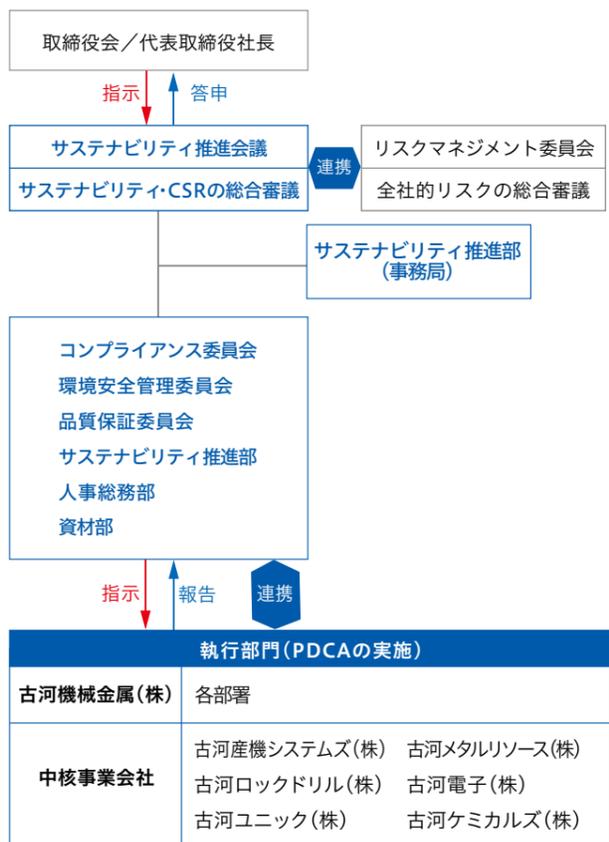
当社グループでは、サステナビリティへの取り組みを一層強化するため、これまで古河機械金属(株)に設置していたCSR活動を推進するための組織である「CSR推進会議」を、2021年12月に「サステナビリティ推進会議」に改組しました。これによりステークホルダーの皆さまに対する責任を明確にして、「古河機械金属グループサステナビリティへの取り組みに関する基本方針」を具現化するための活動に積極的に取り組んでいます。

サステナビリティ推進会議は当社代表取締役社長を議長として当社のサステナビリティ推進部が事務局となり、原則年1回開催されます。同会議では当社グループのサステナビリティおよびCSR活動の基本方針・活動計画の策定、推進体制の整備、活動状況の検証・評価、教育・広報対策など、サステナビリティおよびCSRにおける様々な課題を審議します。

また、当社取締役、各中核事業会社社長に加え、当社の組織であるコンプライアンス委員会、環境安全管理委員会、品質保証委員会の三つの委員会の委員長と当社のサステナビリティ推進部、人事総務部、資材部の三つの部署長がサステナビリティ推進会議の委員を務めており、会議での審議内容や指摘事項を踏まえたうえでサステナビリティおよびCSR活動の執行部門であるグループ各社や当社の各部門との連携を図り、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを展開していきます。

更に、全社的リスクマネジメントに取り組むリスクマネジメント委員会とも連携し、当社グループの事業に関わるリスクの低減と機会の最大化を行う体制を整備していきます。

### サステナビリティ推進体制図



## マテリアリティ(重要課題)の特定

古河機械金属グループは経営理念の具現化と社会課題の解決により一層尽力していくため、2013年に特定したCSR重点課題を見直し、2022年11月開催の取締役会において、2021年12月に制定した「サステナビリティへの取り組みに関する基本方針」に基づく10項目のマテリアリティ(重要課題)を以下のように特定する決議をいたしました。

なお、マテリアリティ(重要課題)への取り組みに関する目標等についても検討を進めています。

決定した目標等について着実なPDCAを実践することで、「2025年ビジョン」にも明記している「CSVの視点を織り込んだ『マーケティング経営』による古河ブランドの価値向上」および「当社グループのCSR/ESG課題に配慮した事業運営の実践による企業価値の向上」を強力に推進し、社会および当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を目指します。

### 1 古河機械金属グループ サステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ(重要課題)

攻め:CSV課題 事業を通じた「社会課題」の解決に関するマテリアリティ(重要課題)	関連する主なSDGs
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した製品・技術・サービスの提供</li> <li>お客さまの課題解決への貢献</li> <li>インフラ整備など安全で快適な社会づくりへの貢献</li> </ul>	
守り:CSR/ESG課題 成長に向けた経営基盤の整備に関するマテリアリティ(重要課題)	関連する主なSDGs
<p><b>E: 環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動における気候変動対策の推進</li> <li>生物多様性保全活動の推進</li> </ul>	
<p><b>S: 社会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康に配慮した安全で働きがいのある職場環境の整備</li> <li>多様な人材の確保と育成</li> <li>人権を尊重した経営の推進</li> </ul>	
<p><b>G: 企業統治</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全社的リスクマネジメント体制の整備</li> <li>コンプライアンスの徹底</li> </ul>	

### 2 マテリアリティ(重要課題)特定の背景

当社グループでは、CSR推進組織を発足した2013年にCSR重点課題を特定し、それらについて目標を立て取り組んできました。しかしながら、近年、気候変動対策やSDGsへの取り組みが更に重要視されるようになり、当社グループとしても従来の課題認識を見直し、経営理念の具現化と社会課題の解決により一層

尽力していくため、2021年12月1日付で「サステナビリティへの取り組みに関する基本方針」を定め、CSR推進体制からサステナビリティ推進体制へ改編しました。更に、従来のCSR重点課題を見直し、当社グループが優先的に取り組むサステナビリティのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。

### 3 マテリアリティ(重要課題)特定のプロセス

Step 1 社会課題の抽出	Step 2 重要度の把握	Step 3 マテリアリティ(重要課題)特定
<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期的な視点で、当社グループおよび様々なステークホルダーが重要と認識する課題を洗い出し。【参考】GRIスタンダード、ISO26000、SDGsの指標・ターゲット、他社の動向等</li> <li>50項目のマテリアリティ(重要課題)候補を抽出。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽出した50項目について、社内アンケートを実施。課題に対する重要度を評価。</li> <li>結果の集計とスコアリングを実施。</li> <li>社会的要請等に鑑みながら、10項目のマテリアリティに集約。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年10月開催の経営会議、2022年11月11日開催の臨時取締役会にてマテリアリティ(重要課題)の特定を決議。</li> </ul>

## サステナビリティ関連組織の中期目標(2023~2025年度)

### サステナビリティ中期目標

活動組織	中期目標(2023~2025年度)	関連する主なSDGs
環境安全管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第四期中期削減計画達成のための、環境パフォーマンス(CO<sub>2</sub>、水資源、廃棄物、化学物質)改善の推進</li> <li>● カーボンニュートラル達成に向けた取り組みの推進</li> <li>● 生物多様性保全活動(緑化・社有林の維持管理、生態系の保全、動植物の再生等)の推進</li> <li>● 無事故・無災害達成に向けた取り組みの強化</li> <li>● 休廃止鉱山管理の徹底</li> </ul>	
品質保証委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【グループ全体】品質に対する認識向上活動の強化</li> <li>● 【機械系事業会社】クレーム件数・費用の削減</li> <li>● 【機械系事業会社】品質保証体制の確立と継続的改善(品質ロードマップに沿った活動の実施)</li> <li>● 【素材系事業会社】品質保証体制の強化(既存手法の見直し、新手法の活用検討)</li> </ul>	
人事総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人材育成・確保</li> <li>● 社内環境の整備</li> <li>● ダイバーシティの推進</li> </ul>	
資材部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGsを考慮した材料・部品、業者からの調達推進</li> <li>● サステナビリティ活動の観点を含めた取引先評価の継続</li> <li>● 総合的な取引先評価(QCD + CSR)の継続</li> <li>● 全社的なCSR調達推進活動の継続</li> </ul>	
サステナビリティ推進部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクマネジメント体制の拡充</li> <li>● サステナビリティ・気候変動に係る開示の実施</li> <li>● サステナビリティへの取り組みに関するマテリアリティ(重要課題)についての施策・目標の進捗管理の実施</li> <li>● 環境・人権デュー・ディリジェンスへの対応の実施</li> <li>● カーボンニュートラルに係るGHG削減計画の推進</li> </ul>	
コンプライアンス委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンス違反の防止機能向上</li> <li>● コンプライアンス意識調査の活用</li> <li>● 個人情報保護法(含むガイドライン)、公益通報者保護法への積極的対応</li> <li>● 下請事業者等の取引先に対する適切な対応</li> <li>● 海外子会社コンプライアンス体制構築</li> </ul>	

## ステークホルダーとの関わり

当社グループでは、サステナビリティへの取り組みの強化と経営理念の実現に当たり、当社グループが考えるステークホルダーを「お客さま」、「取引先」、「株主・投資家」、「従業員」、「地域社会」、「地球環境」と決めました。そのうえで、それぞれのステークホルダーに対する責任を明確にし、適切なコミュニケーション活動を通じ、信頼関係を構築して企業価値の最大化を目指します。

ステークホルダー	ステークホルダーに対する責任	ステークホルダーとのコミュニケーションの機会・手段
お客さま	安全で高品質な製品とサービスを提供し、お客さま満足度の向上を目指します。	サービス活動、営業活動、ウェブサイト、展示会、販売店・代理店との意見交換会など
取引先	公正かつ公平、経済合理性に基づく安定的な調達を実践し、共存共栄ができる互恵関係の維持と構築に努めます。	調達活動および情報交換、CSR推進ガイドラインアンケート、技術指導、生産説明会など
株主・投資家	適時かつ適切な情報開示とIR活動を通じたコミュニケーションにより、企業価値の増大を目指します。	決算説明会、株主総会、機関投資家・アナリストとのIRミーティング、工場見学会、統合報告書等のIRツールやウェブサイトでの情報開示、IRニュース配信など
従業員	安全で健康かつ多様な人材が活躍できる働きやすい職場環境を実現し、適正な評価基準と公平な処遇を実施します。	階層別研修、人事考課・目標評価制度、自己申告制度、経営層と労働組合との協議、従業員サーベイ、内部通報制度など
地域社会	地域社会との共生を目指した社会貢献活動を通じて、良好な信頼関係の維持と構築に努めます。	事業を通じた地域コミュニティへの貢献、ボランティア活動への参加など
地球環境	環境配慮型の技術と製品の開発を進め、省エネルギー、省資源、廃棄物削減など地球への負荷軽減に努め、生物多様性の保全に取り組みます。	植樹活動を行う団体・NPOとの協働、地域住民との生態系の再生・回復活動、環境データ等のサステナビリティ報告書での開示など

## 事業を通じた社会課題の解決

古河機械金属グループは「社会課題」の解決に役立つインフラ整備、製品・技術・サービスなどを提供することで、「企業価値」を創造すると同時に「社会価値」の創造に寄与していきます。SDGsの17の目標のうち、特に「11. 住み続けられるまちづくりを」と「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」への貢献を行うとともに、「古河機械金属グループの価値創造プロセス」(P7、P8参照)にて明示している「社会インフラ整備」、「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」の創造を実現していきます。

### CSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」によるSDGsへの貢献

当社グループはCSVの視点を織り込んだ『マーケティング経営』を実践し、「社会インフラ整備」と「安全で環境に優しい豊かな社会の実現」という「社会価値」を創造することでSDGsの目標達成に貢献します。

### 部門別SDGs貢献目標

部門	主な製品・技術・サービス	貢献度が高いSDGs目標(◎:特に重要、○:重要)						
		3	6	7	9	11	12	13
産業機械	ポンプ、ベルトコンベヤ、橋梁・鋼構造物	○	◎	○	◎	◎	○	○
ロックドリル	トンネルドリルジャンボ、油圧クローラドリル、油圧圧砕機			○	◎	◎	○	
ユニック	ユニッククレーン、ミニクローラクレーン、オーシャンクレーン			○	◎	◎		
金属	電気鋼			○	◎	◎	○	
電子	高純度金属ヒ素、コイル、窒化アルミセラミックス			○	◎	◎	○	
化成	硫酸、硫酸バンド、亜酸化銅		◎	○	◎	◎		

### 産業機械部門 効率性・安全性や環境性能に優れたベルトコンベヤで社会インフラ整備に貢献

産業機械部門では、鉱山開発で培った経験と搬送技術に加え、鉄構事業で有する鋼構造物の設計・現場に適した施工・据付を一貫して対応するエンジニアリング力を活かし、国土強靱化や防災・減災等の社会課題の解決に役立つ製品として、ベルトコンベヤを展開しています。

ベルトコンベヤは一般的な土砂運搬手段であるダンプトラックに比べてCO<sub>2</sub>をほぼ排出せずに省人化できる点や安心・安全な土砂搬送を実現することが評価され、近年活躍の場を広げています。また、土砂などの搬送物をベルトで袋状にして密閉し、モノレールのように吊下げて搬送する密閉式吊下げ型コンベヤ「SICON®」は、荷こぼれや粉じん、騒音、振動を抑制し、

搬送ラインを自在に屈曲できるため、住宅街などの周辺環境への配慮が必要な現場や急峻な斜面での土砂搬送等で採用されています(河川治水工事、トンネル工事、ダム工事など)。

古河機械金属グループのベルトコンベヤの優れた特性や土砂搬送における社会課題の解決事例を紹介する動画をぜひご覧ください。

#### 【ベルトコンベヤ編】



社会課題解決に貢献するベルトコンベヤ

